

令和6年11月定例記者会見要旨

開催日時 令和6年11月18日(月) 午前10時30分 302会議室

(総務部長) 皆さんこんにちは。ただいまより11月の市長定例記者会見を始めます。

(市長) 皆さんこんにちは。暖かい秋が続いておりましたが、いよいよ寒さもやってくるというような時期になりました。それでは11月の定例記者会見ということで、皆様のところへ配布した資料を来月の日程に沿いながら、説明をさせていただきます。

(12月の日程説明等)

○第42回 ニムラ舞踊賞授賞式及び祝賀会

12月1日(日) 16:00 駅前交流テラスすわっチャオ/ホテル紅や

【第42回ニムラ舞踊賞受賞者 近藤良平(コンテンポラリーダンス)】

男性のみの個性的なダンスカンパニー「コンドルズ」を主宰、そのすべての公演で構成、演出、振付、主演。歯切れの良いダンスをベースに、演奏、演劇、人形劇、映像など多彩な手法を駆使して、高いエンターテインメント性に鋭い社会風刺を交えた独特の舞台を創造しつづけている。また、障がい者集団「ハンドルズ」を組織、育成・指導し、共演するなど福祉にも高い関心を示す。さらに、個人としてもダンスのみならずテレビや演劇など広い分野で演出、出演し、また2022年彩の国さいたま芸術劇場の芸術監督に就任、地域の文化芸術の振興にも寄与している。2023年は東京、埼玉などで、衰えぬエネルギーで公演活動を行い、また彩の国さいたま芸術劇場のリニューアルにも芸術監督としての役割をしっかりと果たしている。以上、独創的かつ卓越した創造力、表現力をもって、ダンスの価値を広く発信してきた功績に対して第42回ニムラ舞踊賞を贈り、これを賞する。

世界約30ヶ国で公演を行い、NYタイムズ紙で高く評価される。渋谷公会堂公演が即日完売、また結成20周年を記念したNHKホール公演でも即日完売、追加公演を行うなど、日本のコンテンポラリーダンスでは異例の躍進を遂げる。

【選考】令和6年5月28日(火)11時30分～新国立劇場内マエストロ

下記選考委員及び推薦委員から挙げられた候補者の中から選考し、令和6年8月5日(月)に開催されたニムラ舞踊賞運営委員会において正式決定された。

○チャレンジショップ

12月14日(土) 9:50 駅前交流テラスすわっチャオ

○ファミリーゲレンデ霧ヶ峰スキー場開き

12月24日(火)

オープン式典 9:30

リフト稼働開始 10:00

霧ヶ峰スキー場（第1リフト付近）

オープン当日はリフト、らくちんくん、キッズパーク全てが無料で利用できます。

○仕事納め

12月27日（金）

○諏訪市「シティプロモーション特設サイト」の協働構築・運用に関する協定書調印式
官民が一体となって、諏訪市全体で作り上げるシティプロモーション特設サイトの協働構築・運用に関する協定書調印式を開催します。

株式会社サイネックスと諏訪市は、諏訪地域で初めてとなる官民協働事業による「シティプロモーション特設サイト」の構築および運用を開始します。つきましては、次のとおり協定書調印式を開催します。

日 時 11月20日（水） 9:30

場 所 特別応接室（市役所5階）

「シティプロモーション特設サイト」は、株式会社サイネックスと諏訪市だけではなく、諏訪市内の地域団体や民間企業とも連携を図り、イベントや求人などの情報を集約してリアルな地域情報発信を行う、諏訪市全体で作り上げるサイトです。

教育委員会からのイベント情報

○速報展 小丸山古墳出土品 令和5年度保存処理完了公開展

1 期 間 令和6年12月3日（火）～12月28日（土）

2 会 場 諏訪市博物館2階 すわ大昔ミニギャラリー（常設展示室2内）

3 入館料 通常とおり

4 目 的 諏訪市教育委員会において保存処理事業が実施されている小丸山古墳出土品（一部市有形文化財）に関し、令和5年度の処理完了分を速報的に展示し、文化財を保存することの目的や意義・成果などを市民に知ってもらい、文化財保護事業の啓発を図る。

保存処理は本年度を含めて8年、速報展示は今回で6回目を数える。

様々な企画がございますので、取材の方よろしくお願ひいたします。以上となります。よろしくお願ひいたします。

（総務部長）それではここから記者クラブさんの方にマイクを移したいと思います。幹事社の長野日報さんお願ひします。

記者との質疑応答

○第二次石破内閣へ期待することについて

(記者) 週末も選挙でにぎやかでしたが、第二次石破内閣について、少数与党での船出となりまして、その期待や注目、また特に力を入れて欲しい政策などを市長にお伺いします。

(市長) 第二次石破内閣がスタートしまして、少数与党ということで、報道の皆さんからも色々な記事が出されているところですが、さっそく国民民主党の 103 万円の壁等、議論が行われております。このことは、野党といえども、共同で責任を持って、国政を動かしていかなければならないということでもあります。もちろん、内閣を組織している政権党に大きな責任はありますが、色々な皆さんの意見を加味しながら、国政が進んでいくものと考えています。従いまして、今までのスピード感は、また違った見方になってきます。行政とか政治の進み方という意味では、安定多数を持っている国会、国政については議院内閣制ですから、議会の運営が、そのまま政治に動かされていくということになります。そうした意味では、安定多数の政権と違って、調整に時間もかかるだろうということを予測しています。しかし、時代変革のスピードも速くなっているのを考えますと、その辺の調整力というのは、必要であろうと思いますので期待をしたいと思っています。それから石破内閣、首相におかれては、地方創生の初代の大臣をなさったときから、地方に対しての意識というのは、大変力を入れてきていただいていますし、総裁選のときにも、地方創生を語ってきておられます。その部分について、大いに期待しております。なかなか難しい舵取りも、国際政治を見ましてもアメリカの大統領、ロシアの大統領、中国の国家主席、そうした超大国の力のパワーバランスの中に、今現実には戦争状態が起こっていると、しかも北朝鮮という隣接する国が、実働部隊にかかわってくるというような情勢の中で、国を守っていかなくてはならない内閣です。そうしたことも視野に入れて、やはり民主主義というものは、選んでいる国民の意図を反映していることを考えますと、選挙の時だけではなくて、その後の運営についても力を合わせて運営していくという意識は、これからより必要になっていくのではないかと思います。地方行政においても同じだと思いますので、しっかりと国や県の動向を見据えながらも、我々としても主張すべきことは主張してまいりたいと思っております。

○無投票当選の選挙の増加について

(記者) 隣の下諏訪町の町長が今回も無投票当選になったということで、その無投票の増加が、色々問題視されている中で、市長として、この無投票当選が増えていることについてのご所見をお伺いしたいと思います。

(市長) 本来は、選挙を通して、その執行権者を選んでいくというのが想定されている、大事な原則だということは承知をしております。その上で候補が 1 人しかいないという状況が無投票という状況であります。その見方には色々あると思います。選挙に上げるべき争点が見当たらないということもあるかもしれませんし、出ても勝てないのではないかと

ことで、遠慮される方もいらっしゃるかもしれませんが、あるいは行政、政策政治その取り組みが、それによしと評価されるという考え方もあると思いますし、これは一律ではないと思います。ですから選挙というのは、そのとき一度限りの事象でありますから、その時の有権者の皆さんの判断の結果が選挙の結果等に直結しているというふうに考えることができるのではないかと思います。私も、首長で選挙で選ばれる身でありますから、求められると他人事のような客観的なコメントをせざるを得ないですが、現職の立場とすれば、皆さんにお約束したことや、やるべきことを一生懸命やるということに尽きる、と申し上げるところが精一杯ということで、お許しください。下諏訪町長も同じ思いかもしれません。

○友好都市・姉妹都市との今後の交流や友好関係について

(記者) セントルイス、台東区と友好都市、姉妹都市関係の節目の年を迎えていますが、市長に直接まだコメントを取れていない部分があったので、改めてコロナ禍ではできなかった市民交流もこれからできていくと思うので、関係市との今後の友好に向けての意気込みをお聞かせください。

(市長) 諏訪市長として、セントルイス市へ姉妹都市訪問をしたのが10年ぶりということになります。私個人といたしましては、J Cの時に訪問をさせていただいて以来、約30年ぶりにセントルイス市に訪問させていただきました。現職のティシャウラジョーンズ市長との面会をはじめ、ウェブスターグローブス市、セントルイスというのは非常に大きなエリアで、中核にあるセントルイスシティとの姉妹都市提携をしているのですが、その周辺にカウンティ(郡)があります。カウンティにある高校、これは安全だとか色々なことを考慮して選んでいただいています。まずその高校を訪問させていただきました。千数百人という非常に大きな高校で、そのカリキュラムの現場を見せていただいたり、スポーツにも力を入れていたり、日本とは違うアメリカの高校の環境の中に、諏訪市の子供たちも10日ほど滞在させていただき経験は、彼らにとってすばらしいものだということ、行くときから比べてものすごく成長して帰ってくるのを見ても、納得のいく環境だということ確認できました。またウェブスターグローブス市の市長も会食のランチに顔を見せてくださりまして、お互いにそうした交流というのも大事ですねということも話をさせていただきました。セントルイスの皆さんはもちろん、ティシャウラジョーンズ市長とも50年という半世紀にわたる姉妹都市交流をこれからもまたさらに次の50年に向けて、友好関係を育てていくこととお話させていただきましたことに大変価値がありました。姉妹都市委員会、日米交流協会の女性部の皆さん、それからボタニカルガーデンの皆さんの諏訪とセントルイスの太鼓、これは小口大八さんがもたらした太鼓が、もう40年くらい継続して大変な活躍をしまして、日本のこの辺りの太鼓のグループと遜色のないすばらしい太鼓を披露してくださいました。本当に盛りだくさんのメニューでした。今回初めてとなりますのは、経済交流ということで、今回は2社でしたが、商工会議所のプレゼンテーションで技術を公表しまして、貿易センターの仲介によって、先方のアメリカ全米最大の肥料会社であります企業に、我々の技術も見て

いただきました。それをきっかけに、この後のビジネス交流がスタートできる環境になってきたという成果もありました。帰りはシカゴの総領事館にその報告をし、セントルイスの姉妹都市委員会の前会長が、日本の総領事館の名誉総領事でもありまして、そうした繋がりも認識していただいていること、そして、実際の交流がこれだけ長く続いている姉妹都市関係というのは、全米の中の姉妹都市の中でも、稀有な存在ということで評価いただき、そのことを認識する機会になりました。それから、会場ごとに木遣保存会の石上さんが、公式の法被とおんべを工夫して持ち込みまして、ご披露をして諏訪の文化も感じていただいたり、皆さんからとても好評をいただいたり、5日という限られた時間でしたが、大変充実した中身の濃い訪問でした。議会からは市民代表として議長に行ってください、諏訪市とセントルイスなど国際交流協会、会長をはじめ、関係の皆さんにご同行をいただきました。支援していただきました皆様に感謝申し上げます。

帰国しまして、友好都市であります台東区の40周年で、記念式典を今回は台東区の主催ということで行ってまいりました。不忍池を臨む中華料理店で、見下ろす景色、夜景が大変にすばらしかったです。この40年間の歴史のフィルムを台東区さんが作ってくださってまして、台東区の寛永寺のほとりでおいしい食事をいただきながら、昭和の年代からの当時の浅草の映像から、その交流というのをお互いに認識しました。そして、今1階に展示をさせていただいておりますが、大相撲のような書体で諏訪市の看板や提灯の伝統芸能を記念品にいただきました。諏訪市からは、カリン材。かりんの木ではないですが名前が一緒です。大変硬くて、なかなか加工が難しいですがしっかりとした素材であるカリン材に諏訪市のロゴマークを入れた時計をプレゼントしました。それから議会同士では、やはり市内の地元企業が、最近ヒットしております焚き火台にロゴマークを刻印したものをプレゼントとして交換させていただいてまいりました。毎年隅田川の花火大会に理事者3人で順番に訪問させていただいてまして、その時にお世話になるわけですが、私も市長に就任して、今回は半日じっくりと浅草寺、三社祭をやっている浅草神社の解説をいただきました。台東区が10億円を投入して、浅草寺の裏庭の今まであまり光が当たってこなかった中庭の庭園を整備いたしました。これが大変素晴らしい出来栄えでして、ご案内をいただきました。文化財とかそうした価値に対するその地域の台東区の取り組みということで、特にこの辺りでご縁のあるというと中村不折。高遠の生まれで上諏訪で丁稚奉公をした後、画家として大成する不折は書、中国の土器に刻まれた書の文字の歴史についてのビッグコレクターでありまして、それが博物館で集められて展示されています。そのお向かいに手記のあるという場所も案内してもらい、諏訪と台東区のご縁を感じながら見てきました。台東区は23区の中で、これでもかというぐらい突出した本当に歴史の厚みのある区です。今でもインバウンド、圧倒的に観光客を集めている台東区、経済交流や文化交流なども含めましてこれからの次なる40年に向けたよい交流をさせていただいてまいりました。来年は伊東市との60周年となります。現在企画を総務の方で考えております。お願いします。

○12月定例会について

(記者) 12月定例会ですが目玉事業とか、条例改正案とか何かあったか確認しておきたいです。

(副市長) 議案の送付までお待ちください。

(市長) 明日議会に送付をするのをもち、発表とさせていただきます。

○第二次石破内閣へ期待することについて追加質問

(記者) 石破内閣に関連してですが、少数与党となったことで、何かこれまでの要望活動に、変化が何か生じたりするのでしょうか。

(市長) それは、私たちの要望ですから、特に変更する予定はありません。今までどおり、地域としての要望というのは、しっかりと伝えてまいりたいと思います。

(記者) 例えば国民民主党の方に行かれる等はしますか。

(市長) 例えば国土交通省の治水の全国大会、それから砂防の全国大会、続いておりますが、そこで全国の首長、市町村長が集まって予算要望の決議をいたします。その決議書をもって、もちろん官庁、国土交通省ですとか、それから国会議員の会館を要望書持って回ります。これはもうすべて党派を問わずにすべての議席を持っている長野県選出の国会議員の皆さんにはお願いに上がっていますから、それは今までどおりとなります。

○マニフェスト大賞について

(記者) マニフェスト大賞の受賞は。

(市長) マニフェスト大賞の発表が前日にありまして、それについてはプレゼンをいたしました。その記録については秘書広報課の方で写真等撮ってきましたので、お伝えします。授賞式は15日でしたが、地震の凶上防災訓練と重複し授賞式には出席できず、残念でした。その賞状等は、まだ手元に届いておりませんが、あとで発表になっていましてマニフェスト大賞のホームページ等には掲載されておりましたのでご報告です。

(総務部長) それでは以上をもちまして11月の定例記者会見を終了します。

ありがとうございました。